一九七八年十二月二五日印刷
一九七九年一月一日発行

史林

第62巻　第1号　　史学・地理学・考古学

論　説

「新訂万国全図」の主要資料アロウスミスの原図について……船越昭生（1）

「神の平和」運動と十二世紀カペー王権……江川温（47）

共産主義者同盟解散説の行方……谷口健治（72）

東方会の展開……永井和（98）

書　評

佐藤　長著『チベット歴史地理研究』……若松寛（134）

G. W. Skinner (ed.), *The City in Late Imperial China*……秋山元秀（140）

紹　介

永島福太郎編『三木金物問屋史料』（朝尾直弘）

門脇　禎二著『蘇我蝦夷・入鹿』（館野和己）

松山　宏著『武者の府　鎌倉』（杉橋隆夫）

米原章三伝刊行会編『米原章三伝』（永井　和）

古代学協会編『西洋古代史論集Ⅲ　古典時代の諸相』（大西陸子）

史学研究会

京都大学文学部内

挙げられる。第三点として著者は、帝国の西方と東方の状況を比較しつつ、東方帝国が安泰であったにも拘らず西方帝国のみが崩壊したことを示し、その要因を様々な面から解明しようと試みている。

第三論文J・L・ティアル「ユスティニアヌス帝時代の軍隊における異民族」（杉村貞臣訳）は、ユスティニアヌス一世時代のローマ帝国軍における「異民族」の比重が、時代が下るにつれて質量両面で増大していることを、主としてプロコピウスの記述を典拠として論じている。ティアルによると、異民族の割合が急に増加した最大の原因は、五四一年からのペストの大流行による人口減少であるという。

第四論文「カロリング朝の軍隊における自由人」（石川武訳）の著者H・ダンネンバウアーは、いわゆる「国王自由人学説」の主唱者の一人である。フランク時代の自由人がゲルマン時代の自由人の末裔ではなくて、フランク王権のもとで新たに作り出されたものであると主張する著者は、本論文においても、カロリング朝の勅令にあらわれ、軍隊を構成していたと言われる「自由人」が、古典学説のいう「一般自由人」ではなくて、「王領地に住むがゆえに軍役と貢租の義務を負っている」いわゆる「国王自由人」であると推定している。

第五論文Π・H・トレチャーコフ「最古のヘルースカヤ・ゼムリヤー〉の居住民の起源について」及び第六論文ヴァローニン＝チハーノワ「一〇―一三世紀のロシア文化発展の途」（共に清水睦夫訳）は、わが国において従来ほとんど取り上げられることのなかった古代ロシアを扱う、非常に興味深い論考である。議論そのものは複雑であるから、論文の末尾に訳者が付された懇切な解説を参照して頂きたい。

本書に収められた六編の論考のうちには、普通「西洋古代史」には含まれないものも一、二あるが、既成概念に捉われない幅広い「古代学」の標榜が、古代学協会の方針である。ただ、本論集全三巻を通じて、収録論文の扱う領域がややかたよっていることが気になるが――例えばローマ史に関して言えば、ごく初期と帝国末期に関する論考のみである――紙幅の制約とわが国における古代史研究の現状に照らせば、多くを望むことは困難であろう。今後とも、より大規模な形で、この種の問題提起的な翻訳論文集が刊行されることを、切望する次第である。

（A五判　二〇二頁　一九七八年九月
東京大学出版会　三六〇〇円）
（大西陸子　京都大学大学院生）

『史林』投稿規定

◇資格　本会会員であること
◇投稿受付原稿の種類、長さなど
○研究論文・研究ノート
四〇〇字詰五〇枚程度
研究論文には四〇〇字以内の「要約」と、「英文要約」を添付のこと（研究ノートには両方とも不要）
○学会動向・批判と反省
四〇〇字詰三〇枚以内
○書評　四〇〇字詰二〇枚以内
○紹介　四〇〇字詰三枚程度

天山ウイグル王国とウイグル文書

山田信夫

八四〇年滅亡したモンゴリアの遊牧ウイグル国の亡命者の中、西走した者は、一番遠くセミレチェ方面に入ったもの以外は二派にわかれ、新王国を建設した。一つは中国史書に言う甘州回鶻で、私は河西ウイグル王国とよんでいる。いま一つは高昌（西州）回鶻とよばれるもので、これを故安部健夫氏は西ウイグル国とよばれたが、私は天山ウイグル王国と名付けたい。

安部博士は西ウイグル国を「帝国」とよばれるにふさわしい大国だったとされたが、それには賛成できない。基本的には、敦煌出土資料などから確認し易い、明かに独立した一王国であった河西ウイグル王国と、天山ウイグル王国とは同じである。この国は、天山南麓のトゥルファン盆地、北麓のビシュバリク地方に、天山山間のユルドゥズ盆地を領域とし、ビシュバリク・ホーチョー（高昌）・カラシャフルなどが主要都市であった。その意味では単なるオアシス国家ではなく、オアシス農民に草原牧民、それに多数の異種族・民族をふくんでいた。

この王国史に関する研究資料は極めて不十分だが、社会経済関係については、ウイグル文書とよばれる文書資料が内容豊富で、今後活用されるべきである。たとえばカイイムトゥという人物に関する一連文書一六通は、この王国の基盤をなすオアシス農村社会の成熟した封建的構造を、如実に示していると思う。

受贈図書

（一九七八年九月一日～十二月十五日）

前川貞次郎著　ヨーロッパ史序説（ミネルヴァ書房）
千葉県市原史地名集（市原市教育委員会）
市原地方史研究（市原市教育委員会）九
三浦古文化（京浜急行電鉄三浦古文化研究会）二三
人類学雑誌（日本人類学会）八六―三
産業社会論集（立命館大学）二〇
福岡大学研究所報　三八
経済経営論集（龍谷大学）一八―一、二
鹿児島経大論集　一九―一、二
立命館法学　一三七、一三八
北大史学　一八
樋口進著　巴金とアナキズム（西南学院大学学術研究所紀要一四）
朝鮮学術通報（在日本朝鮮人科学者協会）一五―三、四
民俗学研究紀要（成城大学民俗学研究所）二
神道宗教（国学院大学神道宗教学会）九〇、九一
奈良国立文化財研究所年報　一九七八年
人文自然科学論集（東京経済大学）四六～四九
鹿児島大学教養部史学科報告　二七
人文論叢（福岡大学）一〇―二
文明（東海大学文明研究所）二四
神道史研究（八坂神社神道史学会）二六―二
西洋史学報（広島大学西洋史研究会）復刊六
文理論集（西南学院大学）一九―一
富山県史・史料編六・近代上（富山県史編纂室）
人文学（同志社大学人文学会）一三三
福岡大学研究所報・人文科学編　三九

歴史学報（韓国歴史学会）七九
史海（東京学芸大学史学会）二五
駿台史学（明治大学文学部）四四
龍谷大学論集　四一三
神道学（出雲大社内神道学会）九九
日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）一〇
古代史の研究（関西大学古代史研究会）創刊号
熱田神宮文書（熱田神宮宮庁）
大津市史一・古代（大津市史編纂室）
戸塚理著　稲荷山古墳出土鉄剣と磯城王朝（坂東常民文化研究所）
忠敬堂郷土史料集　第一輯（忠敬堂）

バックナンバーのお知らせ

『史林』のバックナンバー在庫は次の通りです。お申込は必ず前金で、郵送の場合は送料（各冊四〇円）を添えて下さい。

三三巻一号　四一巻四号
三四巻一－二・四号　四二巻五号
三八巻二・四号　四三巻二～四・六号
三九巻六号　四四巻六号
四〇巻五・六号　四六巻四・五号
四七巻一～六号　五五巻一～六号
四八巻三号　五六巻一～六号
四九巻三・五・六号　五七巻一～六号
五〇巻四号　五八巻一～六号
五一巻一～六号　五九巻一～六号
五二巻一～六号　六〇巻一～六号
五三巻一～六号　総目録
五四巻一～五号　六一巻一～六号

頒価は、五六巻六号までは五〇〇円、五七巻一号～五八巻六号は六〇〇円、五九巻一号以降は七五〇円です。なお、一昨年末に刊行いたしました総目録（六〇巻記念特別号）は、頒価一〇〇〇円送料六〇円となっております。

編集後記

明けましておめでとうございます。本年も、会員の皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

六二巻一号をお届けいたします。本号は、新春にふさわしく、欧米各地で資料を採訪してこられた船越氏の雄篇のほか、新進気鋭の、江川、谷口、永井各氏の力作三篇を掲載することができました。充分にご検討くださいます。

なお、本誌の出版に対しては、幸いにして、昭和五三年度もひきつづき、文部省科学研究費補助金（研究成果刊行費）が交付されることになりました。しかし、一昨年来会費を据置いているため、諸経費の値上りによって、今後、会財政は相当苦しくなることが予想されます。史林の会費は、前納していただくことになっておりますので、会員の皆様方におかれましては、なお一層のご協力を賜わりますようお願いする次第でございます。

（堀川）

一九七八年十二月二五日印刷
一九七九年一月一日発行　定価七五〇円
史林（第六二巻第一号）
京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
発行人　史学研究会
振替京都五一五五番
理事長　島田虔次
京都市下京区七条御所ノ内中町五〇
印刷所　中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXII No. 1 Jan. 1979

CONTENTS

Articles:

The Original Map of Arrowsmith as a Main Source of '*Shintei Bankoku Zenzu*'「新訂万国全図」(Revised Map of the World) ..... *A. Funakoshi* (1)

Le mouvement de la paix et la monarchie capétienne du XIIe siècle ..... *A. Egawa* (47)

Die Auflösung des Bundes des Kommunisten? ..... *K. Taniguchi* (72)

The Development of the Toho-Kai 東方会 ..... *K. Nagai* (98)

Book Reviews:

H. Sato, *Studies in the Historical Geography of Tibet* ..... *H. Wakamatsu* (134)

G. W. Skinner (ed.), *The City in Late Imperial China* ..... *M. Akiyama* (140)

Miscellaneous:

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan